

高等学校 令和7年度 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ G 組

教科担当者： (A～G 組： 石倉栄子、澁谷隆子・奈良智子)

使用教科書： (Creative Living 大修館書店)

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に想像しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 自分・家族 【知識及び技能】 人には身体的発達と精神的発達とがあり、精神的には生涯を通じて発達していくこと、青年期は発達の途中であることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 それぞれのライフステージにおける発達課題を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 今から自分の人生で成し遂げようことを考えようとしている。	・ライフデザイン、自立と共生、ライフキャリア、家族。 ・教科書、小論文教材、授業記録用紙、ICTの活用 ・ワークショップやアクティブラーニングを設計し、思考を深めたり、発言に自信を持たせたりする。	【知識・技能】 生涯発達においてそれぞれ未知の現在を生きていて、それぞれの年代の人が精一杯生きていることを理解しているか。 【思考・判断・表現】 それぞれのライフステージにおける発達課題について説明することができる。 小論文課題を型を守って書くことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業記録、出席、発言により評価する。	○	○	○	10
B 被服分野及び被服実習 【知識及び技能】 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 被服実習において、技術から着装まで見通した、総合的な視点で被服製作を工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 被服製作の目的を理解し、学習事項を用いて意欲的に取り組んでいる。	・被服製作についての知識、被服製作の技能 ・リバーシブルトートバッグ教材 布、糸、ミシン、プリント ・一人1台ミシンを用意し、個別で実習を進めることにより、早く技能が身に付く	【知識・技能】 被服製作の目的や一連の流れを理解し、被服製作に適した技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 安全面、作業効率、被服製作に適した器具の選択など、知識・技能を適切に使い、被服製作を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席、集中して取り組んだ時間、被服製作の目的を理解して、作品を丁寧に扱うことができたか。	○	○	○	8
定期考査	中間テストはなし					0
定期考査	期末テスト		○	○		1
C 栄養分野及び調理実習 【知識及び技能】 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫すること。 【学びに向かう力、人間性等】 自己や家族の食事を工夫する為に積極的に食の知識を学ぼうとしている。	・栄養の知識、調理の知識、調理技能 ・教科書、ワークシート、授業記録	【知識・技能】 一生を過ごす体をつくるために、食事を大切にしなければならないことを理解している。 【思考・判断・表現】 食事の持つ4つの役割について説明ができる。栄養素の消化・九州について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や家族の体をつくる、または守ろうとするために知識を得ようとしている。				10
D 持続可能な消費生活・環境 【知識及び技能】 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解する。生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会環境に応じた消費行動や環境意識を身に付けていく。	・消費行動と意思決定、消費者の権利と責任、暮らしと経済 ・教科書、プリント、ワークシート、授業記録 ・ICT機器の活用	【知識・技能】 経済的自立の意味や、生活に必要な支出と生活資金を入手するための労働について理解している。 【思考・判断・表現】 将来送りたい生活をイメージし、実現するための方法について考えることができる。				

	<p>会保障制度などに関連付けて考察する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 経済的に自立の必要性を理解し、自分の理想とする生活を目指そうとする意欲がある。</p>		<p>【主体的に学習に取り組む態度】 経済的に自立の必要性を理解し、自分の理想とする生活をめざそうとする意欲がある。</p>				10
3 学 期	<p>期末テスト</p>						1
	<p>E 住生活</p> <p>【知識及び技能】 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまりづくり、日本の住文化の継承・創造について考慮し、工夫する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな住まい方が広がっていることを理解し、将来の住まいの居ごちについて考えようとしている。</p>	<p>・人間と住まい、住まいの文化、住まいの設計</p> <p>・教科書、ワークシート、授業記録、住まい設計教材、色鉛筆、糊</p> <p>・間取りを配置する実習では、実際に手を動かすことによって、感覚的に間取りを理解できる</p>	<p>【知識・技能】 ライフスタイル・ライフステージによって住まいに求められる機能があることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 住まいは時代とともに変化してきており、ライフステージによりどのような住まい方に重きを置くか考え、課題を設定している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな住まい方が広がっていることを理解し、将来の住まいの居ごちについて考えようとしている。</p>			合計	41

高等学校 令和8年度 教科

家庭

科目 家庭科演習

教科： 家庭 科目： 家庭科演習

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 C 組～ F 組

教科担当者： (A～G 組： 石倉栄子)

使用教科書： (資料集： LIFE 教育図書)

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に想像しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭科演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	子どもの保育 【知識及び技能】 ・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 それぞれのライフステージにおける発達課題を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 今から自分の人生で成し遂げようことを考えようとしている。	保育の意義 ・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものか考える。	【知識・技能】 ・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・保育の意義について、自分自身が親や保育者になることを考えるなど、自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。	○	○	○	22
		中間テストはなし					0
	定期考査	期末テストはなし					
2 学期	保育の環境 【知識及び技能】 ・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 ・家庭での子育ての現状と課題、国の子育て支援の内容について理解している。 ・保育所や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在の子育てが家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。 【学習に向かう力、人間性等】 ・身近な保育・教育施設について関心をもち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。	保育の環境 ・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育てが家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	【知識・技能】 ・日本の子育てが家庭の現状と支援内容、保育施設の保育・教育の特徴、養育と集団保育の役割を理解できているか。 【思考・判断・表現】 ・教科書の写真・動画を見て、家庭での養育と集団保育を比較し共通点や相違点を話し合う。現在の子育て環境の課題や集団保育のニーズなど、ニュースからテーマを探して話し合う。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な保育・教育施設のホームページから、施設や保育の特色を調べ、まとめる。				20